



## 製品安全データシート

会社名: コダック株式会社  
担当部門: コンシューマー&プロフェッショナルイメージング事業部  
所在地: 東京都中央区新川2 - 27 - 1 (〒104-0033)  
電話番号: 03(5540)9000 FAX: 03(5540)2303

緊急連絡先: (財)日本中毒情報センター【中毒 110 番】  
(事故に伴い急性中毒の恐れのある場合に限る)  
9時から17時まで: 0990(52)9899 (ダイヤル Q2 有料)  
又はダイヤル Q2 を利用できない医療施設の場合は 0298(51)9999  
これ以外の時間帯: 0990(50)2499 (ダイヤル Q2 有料)  
又はダイヤル Q2 を利用できない医療施設の場合は 06(6878)1232

MSDS No.000010349/F/AUS/JP

承認日: 2001年09月11日

作成日: 2003年11月18日

### 1 製品名

コダック エクタカラー プライム SP 発色現像補充液 LORR

CAT No.6600233

10リットル用

### 2 危険・有害性の分類

原液:

該当成分 : N-(2-((4-アミノ-3-メチルフェニル)エチルアミノ)エチル)-メタンスルホンアミド(92-09-1)、ジエチレングリコール(111-46-6)、N,Nジエチルヒドロキシルアミン(3710-84-7)を含む。

#### 警告!

腎臓に障害を与える  
中枢神経系に作用することがある  
吸い込むと有害になることがある。  
皮膚を通して吸収したり誤飲すると有害  
皮膚にアレルギー反応を起こすことがある  
水溶液や蒸気は可燃性

使用液:

該当成分 : N-(2-((4-アミノ-3-メチルフェニル)エチルアミノ)エチル)-メタンスルホンアミド(92-09-1)、ジエチレングリコール(111-46-6)を含む。

#### 警告!

誤飲すると有害。  
皮膚にアレルギー反応を起こすことがある。

## 3 物質の特定

原液:

成分	重量 %	CAS No.	PRTR政令番号
ジエチレングリコール	50-55	111-46-6	
水	20-25	7732-18-5	
炭酸カリウム	10-15	584-08-7	
N-(2-((4-アミノ-3-メチルフェニル)エチル)-メタンスルホンアミド	1-5	92-09-1	
N,Nジエチルヒドロキシルアミン	1-5	3710-84-7	

使用液:

成分	重量 %	CAS No.	PRTR政令番号
水	85-90	7732-18-5	
ジエチレングリコール	5-10	111-46-6	
炭酸カリウム	1-5	584-08-7	
N-(2-((4-アミノ-3-メチルフェニル)エチル)-メタンスルホンアミド	< 1	92-09-1	
N,Nジエチルヒドロキシルアミン	< 1	3710-84-7	

## 4 応急措置

**吸入した場合** : 症状が出たら、空気の新鮮な場所に移動する。症状に応じて対処する。症状が続くならば、医療手当を受ける。

**眼に入った場合**: 直ちに、多量の水で 15 分以上洗眼する。直ちに、医療手当を受ける。

使用液 : 眼に入った場合は、直ちに、水で洗い流す。症状が出たら、医療手当を受ける。

**皮膚に付着した場合**:

原液 : 直ちに、汚染した衣服、靴を脱ぎながら、多量の水で 15 分以上洗い流す。直ちに、医療手当を受ける。汚染した衣服は洗ってから使用する。汚染した靴は廃棄するか、十分に洗う。

使用液 : 直ちに、汚染した衣服、靴を脱ぎながら、多量の水で 15 分以上洗い流す。皮膚に炎症やアレルギー反応が生じた場合は、医療手当を受ける。汚染した衣服は洗ってから使用する。汚染した靴は廃棄するか、十分に洗う。

**誤飲した場合**:

医師の指導があった場合のみ吐き出す。直ちに、医師を呼ぶか、中毒 110 番に問い合わせる。被災者が意識喪失の場合には、何も口から与えてはならない。

---

**5 | 火災時の措置**

---

**消火手段:**

- 原液 : 水噴霧、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)、粉末消火剤、発泡消火剤。  
使用液 : 周辺の火災に対し、適切な消火剤を使用する。

**火災時の特別対応手段:**

- 原液 : 呼吸用保護具と保護衣を着用する。火災や過度の熱により有害な分解物質を生じることがある。  
使用液 : 呼吸用保護具と保護衣を着用する。

**有害燃焼物質:**

- 原液 : 二酸化炭素、一酸化炭素、窒素酸化物  
使用液 : なし(不燃性)。

**異常火災/爆発の危険性:**

- 原液 : 安定性不明の過酸化物を形成することがある。  
使用液 : なし。

---

**6 | 漏出時の措置**

---

多量の水とともに洗い流す。不活性物質に吸収させ、化学物質廃棄用の容器に回収する。  
漏洩箇所を十分拭き取る。

---

**7 | 取扱い及び保管上の注意**

---

**取扱い:**

- 原液 : 眼に入れない。皮膚、衣服に付着させない。霧や蒸気を長時間または繰り返し吸引しない。適度な換気を行う。取扱い後は十分に手などを洗う。  
使用液 : 眼、皮膚、衣服に付着させない。霧や蒸気を長時間または繰り返し吸引しない。適度な換気を行う。取扱い後は十分に手などを洗う。非アルカリ性(酸性)のハンドクリーナーを常用する。作業場を清潔に保ち、手袋の着用により皮膚への付着を最小限にする。

**火災や爆発の防止:**

- 原液 : 適度な換気を行う。酸化剤から離す。過酸化物形成の可能性がある場合は、容器を開けたり動かしたりしない。空気に触れさせないこと。  
使用液 : 通常使用では、特に必要なし。

**保管:**

- 原液 : 熱や光から離して保管する。密栓して保管する。不適合物質から離す。  
使用液 : 密栓して保管する。

## 8 | 暴露防止措置

## 許容濃度:

AIHA(WHEEL):

ジエチレングリコール

: 10 mg/m<sup>3</sup> TWA 霧: 50ppm TWA

## 換気:

原液 : 換気の良い場所で取り扱う(例えば 10 air changes/時間)。換気速度は使用状態に合わせる。システムの密閉、補助的な集中排気、技術的措置を使用して、空中濃度を指定許容限度以下に維持する。

使用液 : 換気の良い場所で取り扱う(例えば 10 air changes/時間)。換気速度は使用状態に合わせる。

## 呼吸器系の保護:

原液 : 技術的に空中濃度を指定許容限度以下に維持できない場合は、保護マスクを着用する。保護マスクタイプ: 有機ガス用。必要に応じ、認定保護呼吸器を着用する。保護呼吸器を使用する場合は、OSHA 規格の 29CFR1910.134 に適合する措置を講じること。

使用液 : 必要なし。

## 眼の保護:

原液 : 側板付き安全メガネまたはゴーグル保護メガネと保護マスクの着用。

使用液 : 眼への付着を最小限にする。側板付き安全メガネまたはゴーグル保護メガネの着用。

## 皮膚の保護:

不浸透性の手袋と保護衣を着用する。

浄化する設備 : 洗眼、身体洗浄の設備(安全シャワー)

## 9 | 物理・化学特性

	原 液	使 用 液
外 観	液 体	液 体
色	オレンジ	琥珀色
臭 気	アミン臭	弱アミン臭
比重(水=1)	1.214	1.026
蒸気圧(20 )	24 mbar	24 mbar
蒸気密度(空気=1)	0.6	0.6
揮発留分(重量)	20-25%	95-100%
沸点	>100	>100
水溶性	完全	完全
PH	12.4	10.8
引火点	61-93	なし (不燃性液体)

---

**10 危険性情報(安定性・反応性)**

---

**安定性:**

原液 : 安定

使用液 : 安定

**不適合物質:**

原液 : 強酸化剤

使用液 : 特になし

**危険分解物質:**

原液 : 窒素酸化物

使用液 : なし

**危険重合物質** : 発生しない。

---

**11 有害性情報(暴露の影響)**

---

**暴露の影響:**

## 一般:

該当成分 : ジエチレングリコール。腎臓に障害を与える。中枢神経系に作用することがある。

該当成分 : N-(2-((4-アミノ-3-メチルフェニル)エチル)-メタンサルホンアミド。動物実験データによると腎臓に障害を与えることがある。

該当成分 : トリエタノールアミン。動物実験データによると腎臓と肝臓に障害を与えることがある。

## 吸入:

: 通常取扱いでは、危険性は少ないと予測される。

## 眼:

: 炎症をおこす。

## 皮膚:

原液 : やけどをする。皮膚を通して吸収すると有害。皮膚にアレルギー反応を起こすことがある。

使用液 : 皮膚にアレルギー反応を起こすことがある。

## 誤飲:

原液 : 誤飲すると有害。飲み込むと胃腸系に炎症を起こすことがある。

使用液 : 誤飲すると有害。

---

**12 環境影響情報**

---

この項は、輸送中の不慮の事故などにより発生した漏出時の対応について述べるもので、下水道などに排出するための情報ではありません。

本製品の主要成分のデータに基づいて本製品の環境への影響を評価しますが、実際には試してはいません。

水質系に流出した場合、BODは中庸で、酸素を破壊することがある。一部の水中生物への影響は大きい。二次廃棄物処理微生物代謝に影響を及ぼす可能性は高い。自然環境での残存率は低い。生物分解処理はされにくい。多量の水で希釈したうえ二次廃棄物処理を行えば、自然環境に放たれても問題はないであろうと思われる。

## 13 廃棄時の注意

本製品を未使用で廃棄する場合は、特別管理産業廃棄物に該当する。特別管理産業廃棄物処分量の免許を持った業者へ特別管理産業廃棄物管理票(マニフェスト)を添えて依頼する。

廃棄物に該当する法規:

廃棄物処理法	: 産業廃棄物 原液(廃アルカリ) 使用液(廃アルカリ)
水質汚濁防止法	: 生活環境項目
下水道法	: 下水の排除の制限

## 14 輸送上の注意

陸上輸送:

原液 : -----

航空輸送:

原液 : -----

Class	: -----
UN-No.	: -----
Proper Shipping Name	: -----
Subsidiary risk	: -----
Packing group	: -----
Passenger Aircraft	: -----
Cargo Aircraft Only	: -----

## 15 適用法令

化学物質管理促進法 (PRTR 法)	: -----
毒物劇物取締法 (毒劇法)	: -----
労働安全衛生法 (安衛法)	: -----
消防法危険物分類 (消防法)	: -----

## 16 その他

危険・有害性の評価は、必ずしも十分ではないので、上記の内容は補足の情報と見なし、取扱いには十分注意してください。